

2024年6月14日

各位

会社名 ヤーマン株式会社
(コード番号: 6630 東証プライム市場)
代表者名 代表取締役社長 山崎 貴三代
問合せ先責任者 取締役管理本部長 宮崎 昌也
TEL 03-5665-7330
URL <https://www.ya-man.co.jp/>

貸倒引当金繰入額、関係会社株式評価損（個別）の計上及び
通期連結業績予想と実績値の差異並びに個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2024年4月期決算において貸倒引当金繰入額及び個別決算において関係会社株式評価損を計上いたしましたので、その概要をお知らせいたしますとともに、2024年3月14日に開示した2024年4月期の通期連結業績予想値と、本日公表した実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

また、個別業績予想を開示しておりませんが、当社の個別決算における当事業年度の実績値が前事業年度の実績値と比較して差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 貸倒引当金繰入額の計上

2024年4月期連結及び個別決算において、ALPS処理水による影響、RF規制の混乱、中国国内の経済停滞を勘案して、中国向け売掛金の一部について、保守的・予防的に貸倒引当金繰入額980百万円を販売費及び一般管理費に計上いたしました。現時点においては、貸倒れや未回収等、具体的な損失は発生しておりません。

2. 関係会社株式評価損（個別）の計上

当社の連結子会社であるYA-MAN U.S.A. LTD、及び当社の関連会社であるMACHERIE BEAUTY TECHNOLOGY Inc、株式会社エフェクティブの3社の株式につきまして、その実質価値が著しく低下したため、2024年4月期個別決算において、関係会社株式評価損909百万円を特別損失に計上いたしました。

なお、上記評価損は、連結決算においては消去されるため、2024年4月期の連結業績への影響はありません。

3. 2024年4月期通期連結業績予想と実績値の差異（2023年5月1日～2024年4月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり当期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	32,430	1,660	1,830	950	17.27
実績値 (B)	32,023	416	1,010	398	7.24
増減額 (B-A)	△407	△1,244	△820	△552	
増減率 (%)	△1.3	△74.9	△44.8	△58.1	
(ご参考) 前期通期実績 (2023年4月期)	42,996	6,134	5,917	3,913	71.12

(差異の理由)

営業利益、経常利益及び親会社に帰属する当期純利益については、広告宣伝費等の費用削減に努めましたが、中国向け売掛金の一部について、保守的・予防的に貸倒引当金繰入額を計上したこと、コロナ禍当初に在庫確保のために調達した一部の棚卸資産の評価損を計上したこと及び売上高の減少等により、予想値を下回りました。

4. 2024年4月期通期個別業績の前期実績との差異（2023年5月1日～2024年4月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績値 (A) (2023年4月期)	42,695	6,498	6,763	4,712	85.65
当期実績値 (B) (2024年4月期)	30,849	860	2,037	162	2.95
増減額 (B-A)	△11,845	△5,637	△4,726	△4,550	
増減率 (%)	△27.7	△86.8	△69.9	△96.6	

(差異の理由)

売上高は、足元の物価上昇による消費者マインドの回復の遅れ及び中国国内での経済停滞等により前事業年度を下回りました。営業利益及び経常利益は、投資が先行したことによる費用の増加や、中国国内での諸状況を勘案して、中国向け売掛金の一部について、保守的・予防的に貸倒引当金を計上したこと及びコロナ禍当初に在庫確保のために調達した棚卸資産の一部について評価損を計上したこと等から、前事業年度を下回りました。当期純利益は、それに加えて、2に記載したとおり、関係会社株式評価損を計上したことにより、前事業年度を下回ることとなりました。

以上